

## THE SHIGA PHYSICAL THERAPY ASSOCIATION NEWS



### 公益社団法人 滋賀県理学療法士会 ニュース

No.212 (2019-1)

<http://www.shiga-pt.or.jp>

#### 2019.2.1発行

発行者：(公社)滋賀県理学療法士会 平岩 康之  
〒520-3201  
滋賀県湖南市下田909-9

編集者：龍本 隆 (公立甲賀病院)  
高島 健太 (公立甲賀病院)

印刷所：(有)東 呉 竹 堂 (ひがし印刷)

## 新年のご挨拶

公益社団法人 滋賀県理学療法士会  
会長 平岩 康之



新年あけましておめでとうございます。

皆さまには健やかに新年をお迎えのこととところよりお慶び申し上げます。

昨年は様々な事業への参画のオファーが来ましたので、理事役員の協力を得てできるだけ参加するようにいたしました。滋賀県は全国でも長寿県ではあります。滋賀県はみんなでつくる「健康しが」を旗じるしに健康しがマルシェや共創会議など、団体や企業を巻き込んだ健康寿命延伸のための様々な取り組みが開始されました。文末に

健康しがのポータルサイトのURLを記載いたしますので詳しくはそちらをご参照ください。士会としては理学療法の技術をととして、できる限り県民の健康に寄与していきたいという思いで参加いたしました。そこで感じたことは、まだまだ理学療法士という仕事が県民の皆様にはご存知いただけていないのではという疑問です。理学療法は単なるマッサージでもなければレクリエーショナルな運動を提供するだけのものでもありません。簡単に言い表せることができない複雑な技術の集合です。これを伝えていくのはなかなか難しく、特に健康な方には興味を持っていただくことの困難さを感じました。我々は、病院・施設の中の仕事を全うすることは当然のことですが、これからの超高齢化社会の進展の中、いかに地域でその理学療法のもてる力を発揮するかは大きな課題でもあり、期待でもあります。いかにすれば県民の健康に貢献できるか、また、単に寿命を延ばすだけでなく、健康でQOLの高い人生、やりがいのある人生に貢献できるかを考えて実践していかなければならないと思います。理学療法士は医学と運動、環境などに精通し、医療と介護、疾病や介護予防など幅広い部分で橋渡しのできる職種ではないかと思っています。必ず、社会に貢献できる職種であると確信しています。今後も理学療法士の知名度を高めるとともに、会員の皆様の知恵をお借りして事業を展開していきたいと思っています。

昨年は日本理学療法士協会の理事の田中まさし氏と共に県内の医療施設の視察に回らしていただきました。やはり直接現場を見せていただくと、皆様の頑張りや、利用者の方の感謝の気持ちが非常に伝わります。県内の施設の状況を把握しておくことは会長の務めであると実感しました。まだまだ一部の施設しか行けておりませんが、任期中せめて一回でも会員の皆様に直接お会いしてお話できたらと思っています。今年度も引き続き皆様の施設にお邪魔したいと思いますので、その節は温かく迎えていただきますようお願いいたします。

次年度以降は、日本理学療法士協会主導ではありますが、生涯学習プログラムを見直すことになっております。経験年数にかかわらず常に最新知識をアップデートできる体制を構築し、県民の皆様安心して理学療法を受けていただけるようにしていきたいと思っています。会員の皆様、管理者の皆様には大変ご無理申し上げることもあるかと思いますが、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、県民の皆様、会員の皆様には、本年がますます輝かしい年になりますよう祈念いたしまして新年のあいさつとさせていただきます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

みんなでつくろう！健康しが ポータルサイト <https://www.kenkou-shiga.jp/>

## おおつ健康フェスティバル 2018 活動報告

### ■ 活動報告 ■

平成30年10月21日におおつ健康フェスティバルに参加させて頂きました。昨年同様、大津ブロックの先生方が中心となり、「シルバーリハビリ体操」の指導を「転倒予防」「膝痛予防」「腰痛予防」「肩痛予防」の4つのブースに分けて行いました。今年は計128名の方に参加して頂き過去最高となりました。毎年本ブースでの体操指

滋賀県理学療法士会 公益事業部

ヴォーリス記念病院 安居 伸 悟

導を楽しみにしている方も増えており、かなり本事業が定着してきているように感じております。今後も本事業のさらなる発展、地域への貢献を目標に、本事業に取り組んでいきたいと考えております。最後になりましたが、参加されたスタッフの皆様本当にお疲れ様でした。



## しごとチャレンジフェスタ 2018 活動報告

### ■ 活動報告 ■

しごとチャレンジフェスタ2018が、11月3日と4日の2日間の日程で開催されました。会場は昨年度と同様に竜王町総合運動公園(ドラゴンハット)で行われました。しごと体験教室は2日間で34名の参加があり、理学療法士の働いてい

滋賀県理学療法士会 公益事業部

ヴォーリス記念病院 田 中 潤

る場面の紹介や理学療法士になるための教育課程の説明をさせてもらい、その後に血圧や関節角度の測定、バランスやジャンプ力の測定など全部で7項目を評価してもらいました。また、しごとチャレンジタイムでは7項目中2項目ほ

どを体験してもらいました。

中にはチャレンジタイムで興味を持って下さったのか、実際の体験教室に当日分で申し込んで下さる方がいたりするなど、理学療法士になりたいという子供達の熱い眼差しを感じるこ

ができ、スタッフも嬉しく思いました。

今後も子供達の活躍に、少しでも貢献をさせていただきたいと思います。



## リレーフォーライフジャパン 活動報告

### ■ 活動報告 ■

2018年度も滋賀県理学療法士会は滋賀医科大学で開催されたリレーフォーライフジャパンに参加させて頂きました。リレーフォーライフとは、がん患者様やそのご家族様を支援し、地域全体でがんと向き合い、そしてがん征圧を目指すためのイベントです。多くの人の思いが込められたルミナリエバック（行灯）が並ぶ中を24時間歩きます。ともに夜を越えることで明日を生きる勇気と希望を分かち合います。滋賀県理学療法士会のリハビリ紹介ブースも大変盛況

滋賀県理学療法士会 公益事業部

ヴォーリス記念病院 前田 早也花

で、士会のタオルも配布させて頂きました。今年は天気が危ぶまれましたが、小雨程度で無事終わることが出来ました。士会のブースに興味を持って頂き、タオルやパンフレット等にたくさんの方が目を向けて下さいました。ルミナリエバックは当日参加のスタッフや、士会の先生方に協力して頂き作成し、滋賀県理学療法士会からは5つのルミナリエバックを提出させて頂きました。ご協力頂いた皆様方、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。





## 第4回 在宅医療多職種キャリアアップ研究会の活動報告

公益社団法人 滋賀県理学療法士会 公益事業部  
甲賀市水口医療介護センター 岸本 美地彦

平成30年10月28日(日)に滋賀県理学療法士会は、ニプロ(株)医療研修施設(ニプロiMEP)にて開催されました「第4回在宅医療多職種キャリアアップ研究会 地域リハビリテーション・地域と共に生きる社会参加」に参加をさせていただきましたので報告をさせていただきます。

研究会の目的として、在宅医療はリハビリテーションを通じて、多職種の「リハ」認識を知り、より良い住民のQOL向上・社会参加を図ることが出来るようになるなど健康管理に繋がります。病院も含め全職種が関わる問題です。地域包括ケアにおける「ひと」を中心としたQOLの向上、小児・障がい者・超高齢者を含む地域共生社会の実現に向けて、医療・介護・福祉従事者など、様々な人と交流し、介護体験を通じ日頃の悩みを共有し、意見交換を行い、より良い在宅医療・在宅生活を提供することを目的として開催されました。

当日の日程は、第1部記念講演「地域共生社会づくりにおけるリハビリテーションの役割」、第2部 滋賀県史上最大多職種リハ体験、第3部 グループディスカッションとなっております。

主催は日本プライマリ・ケア連合学会滋賀県支部で、滋賀県理学療法士会は後援として、主に第2部 滋賀県史上最大多職種リハ体験の中で「日常の評価・トレーニング」コーナーを開き参加させていただきました。当日は、医療・介護・福祉従事者、行政職の方々など、多くの多職種の皆様に、理学療法士という存在を知っていただき、また日常の評価・トレーニングを体験していただくことで、より理学療法士の存在を身近に感じていただける良い機会になったのではないかと考えております。

今後もこのような活動は大切であると思うため、継続していきたいと考えております。



## 障がい者スポーツ支援部だより

レクリエーション活動やスポーツ参加の機会を充実させるためになにができるか？  
“kids Ski club”の活動報告から

石田 哲士（滋賀県立総合病院）

身体活動としてのレクリエーション活動やスポーツは余暇のひとつとしてQOLと密接な関係があり、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムにおいても一つのツールとして用いられています。しかし、多くの障がい者、特に障がい児やその養育者の参加においては機会や環境の整備などが十分に進んでいるとは言い難い現状があります。今回は、“kids ski club”の活動の経緯や現状報告と課題を踏まえ我々の職種にもできるきっかけになれば幸いです。まず、活動のきっかけは担当児の母親の「家族でスキー行けるのかな？」との会話から、「できるかやってみよう！」ということで2014年から活動を始めました。まずは県内の”びわ湖バレイスキー場”で行いました。スキー場へは、1)企画の趣旨、バ이스キーの説明を資料や動画を用いて説

明し、2)駐車場の確保（当時、車椅子車両の駐車スペースはありませんでした。）、3)車椅子やバギーでの Gondola・リフトへの導線や乗り降り方法の事前確認、4)休憩スペースの確保、5)食事内容、6)滑走時の安全配慮の体制等の打ち合わせ、7)父親への安全面への説明と参加への同意、8)ボランティアの協力依頼、9)バ이스キーの手配とシーティングの事前調整（図1）、10)体調管理と活動時間のスケジュールリング等の準備を行いました。2年目以降は参加家族が開催の主導となり活動場所を福井県のスキージャム勝山に移し”子ども未来基金助成金”を受け継続開催しています。参加者は小学校低学年のお子さんとそのご兄弟で、他府県からの参加者やボランティアの方も徐々に増えてきています。



平成26年度の滋賀県リハビリテーションセンターの調査研究報より「機会があれば経験させてあげたいと願う」との回答が9割近くある一方で、機会を得ているのは約30%前後と少なく、予測さ

れる障壁については、①介助負担やヘルパーの利用困難等による人手不足に関する内容、②オムツの交換場所や休憩場所、③人混みでない環境(感染/体温調整)等に関する内容、④施設での障が

い者の受け入れ困難、⑤医療的ケア、看護体制、⑥個々の障がい特性に応じたスポーツの選択に関する内容が挙げられており改善すべき課題が山積している状況があることが報告されています。また、情報源は、知人からの紹介か40.6%と最も多く、医療機関や学校などからの情報提供は少ない実態がみられました。情報の集約と発信、特に⑥に関しては、我々理学療法士が担っていけない内容ではないかと考えます。

このような活動は、インフォーマルな活動によって支えられている現状が多く、子ども未来基金助成金の平成29年度の終了もあいまって”kids ski club”の活動の継続にも課題があります。周りの援助で達成できた成功体験は参加者から主催者側へと変化し、レクリエーション活動やスポーツ参加には社会参加に繋がる力があるという事を身をもって体験しました。2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催、2024年滋

賀国体・全国障害者スポーツ大会の開催を控え、「余暇としてのレクリエーション活動」から「スポーツ」へ、そして「スポーツによる社会化※1」や志向によっては「競技としてのスポーツ」へ移行できる環境（ハード・ソフト両面）の整備、広報活動や体制づくりに理学療法士の活動は重要な役割を担っていると考えます。

※1：スポーツによる社会化 (socialization via sport) とは個人がある特定のスポーツを実施する中で(スポーツを手段として)当該社会において必要とされる価値や技術、態度を獲得することである。socialize とは社会化される個人を意味している。

※障がい者スポーツ/社会参加/余暇活動等に、ご興味のある方は、滋賀県立総合病院の石田哲士までご連絡ください。

mail: tetu211@gmail.com

## 綿向山ハイキングのご報告

今年のハイキング企画は、日野町の綿向山。標高1110mにちなんで11月10日に毎年開催される“ふれあい綿向山Day”に参加しました。参加者は子供4名を含む10名。

朝9時にふもとの御幸橋を出発し、片道2時間半を休み休み登りました。山道の途中ではコンサートや喫茶など様々なイベントが開催されており、多くの方が休憩されていました。

なだらかな登山道を3合目、5合目と順調に登っていましたが、7合目からは景色も天候も一転し、周囲は葉のない木々と熊笹の絨毯、雲の中の強風で冬山の寒さに加え、前日に降った雨の影響が残ったぬかるみで足を取られ、という過酷な環境でした。

それでもお昼前には登頂することができて、実行委員会の方から登山証明書をいただきました。記念撮影もしていただきました。この時点ではまだ曇っていましたが、次第に晴れ間が差し、紅葉に色付く山々を見渡すことができるようになりました。風も止んだので日差しはとても暖かかったです。

山頂にはすでに数百人の方が思い思いに昼休憩を取っておられ、我々も景色の綺麗な場所で昼食としました。今回の参加者の中には小型コンロを持参された方もおられ、皆さんにコーンスープやコーヒーを振舞っていただきました。寒かったのでとても温まりました。

下山は7合目以下来た道を帰る形でしたが、水無山ルートや竜王山ルートもあるらしく、またの機会に行ってみたいものです。





今回の企画も日頃の運動不足が・・・という状況でしたが、やはり登った時の爽快感と絶景は何とも言えません。雄大な景色を望みながらの昼食も絶品です。

次回の企画はいつになるかわかりませんが、多くの参加者をお待ちしております。

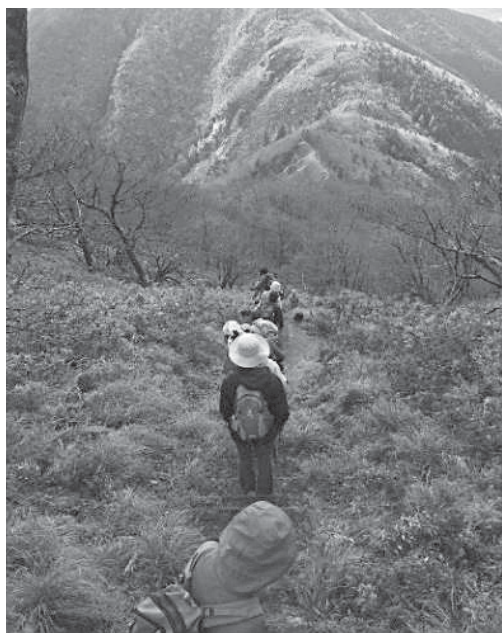
厚生部



▲ 登山届を出し、いざ入山



▲ 一度に3人までしか渡れない橋



▲ 山頂からの絶景



▲ 晴れ間が差し、山頂で昼食準備



▲ 小型コンロで暖かい飲み物を



## こ ん な 本

読みました!



株式会社明尚 リハステーション守山

山 川 弘 輝

【題名】

新卒ですが、介護の  
相談うけたまわります

【著者名】

新開 省二

【出版社】

草思社



介護にまつわる、でも介護だけでは解決できない問題を解決していくお仕事物語です。他人からみると一見不合理である言動や事柄も、本人からすればそれなりの歴史と理由があるものです。人のそんな不合理な部分に寄り添いながら、それをお手伝いするのが介護なのかもしれません。我々リハビリテーション専門職が介護現場、地域から学ぶ事は多くありそうです。新卒で介護の世界に入った1人として考えさせられた一冊です。

## こ ん な 本

読みました!



大津市社会福祉事業団

並 河 孝

【題名】

尾畠春夫  
魂の生き方

【著者名】

尾畠春夫・松下幸

【出版社】

南々社



昨年の流行語大賞の候補にあがるくらい有名になった『スーパーボランティア』の言葉、まさに読み進むほどすごい一言で、尾畠春夫さん（78歳）の社会貢献活動を示す的確な表現であると痛感した。この本は、直接尾畠さんが書かれたのではなく、出版社のジャーナリストである松下幸氏の取材、同行の成果を文章にしている。一躍全国に知られるようになったのは、山口県の周防大島で2歳児藤本理稀君が行方不明となり、3日ぶりにボランティアが発見したとの報道が全国を駆け巡った。尾畑さんは、よし君が行方不明になった翌日に大分県で新聞を見て知り、見つければいいのにと考えていた。しかし翌日の朝刊を見て、まだ見つかっていないとのことで急遽準備して朝9時半に大分県を出発して、午後1時半現地に到着した。町役場の支所から指示を受け現場に行き、午後2時過ぎからよし君の家周辺環境を調べ、ご家族にも会い「大分県から来たものですが、お子さんを探させて頂きます。万が一私が探し当てたら、抱っこして必ずじかにお渡ししますから」と言い、自宅周囲を捜したが見つからず、その日は寝袋に入って寝た。翌朝3時半に起きて朝食をとり、タイムリミットの3日目警察が捜査始めると賑やかになり、よし君の声が聞こえにくくなるので6時過ぎに出発して今までの経験を活かして捜し始めた。30分くらい「よーしくーん」と大声で呼びかけていたら、「ぼくここ」と返事があり近づいていき思わず涙がこぼれたとのこと。抱きかかえて道を降りていくと15人くらいの警察の人に会い「こちらに手渡して下さい」と言われたが、「すみません、おやっさん（警官）私はお母さんとおじいさんと直接お渡しします」と約束したからと無理を言い、直接によし君をお母さんにお渡しした。その時のお母さんの顔は忘れられない。その顔を見ただけで幸せですと書かれている。若い時から色々な仕事に付き、その経験をもとにボランティア活動に活かされてきた。常に軽自動車で移動し、寝床にしたり食事をしたりでボランティアで参加する以上、現地の人には迷惑をかけないことを貫かれている。尾畠さんをわかり易く簡単な文章で表現されているので、社会貢献活動を学びたい方は是非ご一読ください。



## 地域医療公開研修会リハビリテーションセミナーのご案内

慢性的な筋骨格系疼痛を有する症例に対して困っている方、運動器系の疼痛のセラピーに興味を持っている方、是非奮ってご参加ください。慢性痛治療の最先端のシドニー大学で研修され、病院の集学的診療でペインリハビリテーションを実践されている講師をお招きし、ご講演をしていただきます。

|     |                              |
|-----|------------------------------|
| 日 時 | 2019年 2月7日(木) 17:30～18:30    |
| 場 所 | 大津赤十字病院8階ABC会議室              |
| 内 容 | 慢性筋骨格系疼痛に対するリハビリテーション        |
| 講 師 | 久郷真人先生(滋賀医科大学附属病院リハビリテーション部) |
| 定 員 | なし                           |
| 金 額 | 無料                           |

## 平成30年度定例研修会 第2回 滋賀県神経理学療法研究会研修会

|     |                                                                                                                       |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講 師 | 大畑光司先生(京都大学大学院医学研究科人間健康科学専攻 理学療法士)                                                                                    |
| テ マ | 脳卒中後歩行障害に対する理学療法の考え方                                                                                                  |
| 日 時 | 平成31年2月10日(日) 10:00～15:00 (9:30受付開始)                                                                                  |
| 内 容 | 脳卒中発症後に多く経験する歩行障害に対し、その評価方法と介入方法の考え方の基礎を学習し、理論的な臨床応用の習得を目指します。<br>また、近年注目が高まっている「ロボット併用リハビリテーション」の実際と、可能性を学ぶことを目指します。 |

対 象：理学療法士および関連職種

定 員：200名

会 場：ピアザ淡海(県民交流センター)

〒520-0801

滋賀県大津市におの浜1-1-20

研修会費：滋賀県理学療法士会員：無料

その他：1000円

備 考：都道府県士会主催の講習会・研修会履修ポイントの10ポイントが付与されます。また、新人教育プログラムC-2のポイントが認証されます。当日は会員証(緑のカード)を御持参下さい。会員証を非所持の場合、生年月日を確認することになります。領収証が必要な場合は、受付時に申し付け下さい。

お問い合わせ：滋賀県理学療法士会 神経理学療法研究会

山口卓也(sigaptsinnkei@gmail.com)

申込方法：下記URLリンクより申込み下さい。

申し込み期間は、2019年1月4日～1月25日、応募者多数の場合は、先着順に採択とさせていただきます。下記フォームは期間外では使用できず、定員になり次第閉鎖させていただきます。(滋賀県理学療法士会ホームページでも申込み可能です。)

[https://docs.google.com/forms/d/1\\_tS3V3vcVicQo2CbVUehvwnYvtr6sDALVAXP-SxGP4M/edit#responses](https://docs.google.com/forms/d/1_tS3V3vcVicQo2CbVUehvwnYvtr6sDALVAXP-SxGP4M/edit#responses)

## 滋賀県理学療法士会 国体支援 2018年度第5回研修会

**テーマ** スポーツ現場における外傷への対応（上肢）、筋力トレーニング

**日時** 平成31年2月17日（日）10：00～16：00（受付9：30から）

**内容** スポーツ現場で活躍する理学療法士の育成を目的として、国体支援部内にて知識・技術の向上を図ります。第一部は、練習や試合において発生する可能性のある上肢スポーツ外傷のメカニズムを講義形式で学習します。その後、応急処置方法を実技形式で学習します。第二部は、スポーツ現場における筋力トレーニングを理論と実技で学びます。また、グループ形式にて集団に対しての指導方法も学習します。

**対 容** 国体支援部研修会ベーシック「ウォーミングアップとクーリングダウン」を受講された方 ※部内研修会のため

**タイムスケジュール**

9：30 受付開始

10：00 上肢のスポーツ外傷概論

11：00 上肢の応急処置、理論と実技

13：00 お昼休憩

14：00 筋力トレーニング概論、実技、グループワーク

16：00 終了

**講 師：**久田 信彦、富士野 秀峰、土山 裕之、  
中西 恭介

お問い合わせ下さい。

**会 場：**吉身会館  
〒520-0801  
滋賀県大津市におの浜1-1-20

<https://goo.gl/forms/2fwa1gcNOVWimS>

**申込締切：**平成31年2月10日(日)

**持 物：**動きやすい服装、三角巾（目安105cm  
×105cm×150cm）

**お問い合わせ先：**〒529-1174  
滋賀県犬上郡豊郷町下枝23-1

**参 加 費：**無料

おした整形外科医院

TEL：0749-35-0017

**懇 親 会：**研修会終了後に会場付近で懇親会を  
予定しています（参加費3000円～  
5000円）

国体支援委員会 事務局（担当：土  
山）  
E-mail：pt.shigakokutai@gmail.  
com

**申込方法：**下記URLに必要な事項を入力しお申し  
込み下さい。お申し込み後、自動返  
信メールをお送りさせていただきます  
ので、メールが届かない場合は



## 第 34 回 滋賀県理学療法学会 一般演題募集

開催日時：平成 31 年 6 月 30 日 ( 日 )  
会場：医療研修施設「ニプロ iMEP ( アイメップ )

### 演題募集要項

#### [1] 今大会の演題発表概要

口述発表形式で行います。  
( 演題申込み数により、発表形式の変更あり )

#### [2] 発表時間

口述発表、ポスター発表：1 演題につき 10 分  
( 発表時間 7 分、質疑時間 3 分 )

#### [3] 応募資格

筆頭演者は、公益社団法人 滋賀県理学療法士会会員に限りま

#### [4] 応募方法

抄録の投稿をもって受付と致します。  
応募先 E-mail アドレス  
reha-station@373932hp.jp

#### [5] 応募期限

平成 30 年 12 月 1 日 ( 土 ) ~  
平成 31 年 2 月 28 日 ( 木 ) 17 時まで。  
締め切り間近は問い合わせが集中しますので、  
余裕を持って応募頂くことをお勧めします。

#### [6] 応募上の注意

演題は、未発表の物に限ります。応募された演題 ( 抄録 ) と当日の発表内容が大幅に変わることの無いようお願い致します。ヘルシンキ宣言に沿った研究であることをご確認ください。

#### [7] 演題審査及び決定通知

演題の採択は、本学会大会準備委員が定めた演題審査員 ( 査読者 ) による審査結果を参考に大会長が決定し、発表形式についても事務局の判断で通知致します。平成 31 年 4 月末日までに応募者のメールアドレス宛に通知致します。

#### [8] 抄録の作成

抄録集の事前配布を予定しています。『演者名』『所属』『キーワード ( 3 つ )』『本文』の順で Windows 版 Microsoft Word にて作成し、電子メールに添付してください。

様式は縦 A4 用紙に横書きにて、一行の文字数は 26 文字以内、行数は 50 行以下とし、印字範囲が横 8.5cm、縦 25.0cm の長方形におさまるようにしてください。

文字の大きさ等については、演題名は MS ゴシック体 12 ポイント、その他の文字は MS 明朝体 10.5 ポイントに設定してください。

本文には【目的】、【方法】、【説明と同意】、【結果】、【考察】、【まとめ】、などの小見出しを付け文字数は全角換算で 1,000 文字以内としてください。

機種依存文字、外字は使用しないでください。

図表は抄録に含めないでください。

抄録中に倫理規定に関する記述がない場合には登録できませんので、注意してください。

#### [9] 公益社団法人 滋賀県理学療法士会誌への掲載

公益社団法人 滋賀県理学療法士会誌への掲載・投稿を推薦する場合があります。

#### [10] 発表演題申し込みに関する問い合わせ、および抄録の問い合わせ先

医療法人芙蓉会南草津病院

リハビリテーション部 諸頭 幸平

Tel : 077-562-0724

E-mail アドレス : reha-station@373932hp.jp

メールでのお問い合わせの際は必ず題名に「第 34 回滋賀県理学療法学会に関する問い合わせ」と記載し、本文中に氏名、連絡先を添えていただきますようお願い致します。

たくさんのご応募をお待ちしています。

## 理事会だより

# 第3回公益事業検討会議報告

開催日時：平成30年12月13日(木) 18:30～21:00

開催場所：滋賀医科大学医学部附属病院 会議室

出席理事：平岩康之 柴田健治 宇於崎孝 松岡昌己 川崎浩子 弘部重信  
吉田環 久保貴弘 森智子

出席役員：各部門長 滋賀県理学療法士学術集会大会長  
議長：平岩康之

## 1. 会長報告

平岩会長より活動報告と現状での課題について説明された。

### ・公益事業に関して

多職種連携の必要性が問われており、POS連絡協議会としてOT, STとの連携し各ブロックでの介護予防やケア会議での派遣などに取り組んでいる。また、薬剤師会、ケアマネ協議会と共同事業を検討している。健康しが共創会議を機会に一般企業との協働を検討していく。

### ・会費と未納について

会費未納の規定が変わり、未納退会者が滋賀でも数名あった。今後、会費の検討、会費に見合った士会の魅力を増やすことに重点をおく。会費減額も検討したいが会費以外の収益が必要になる。

### ・災害について

被災地へのセラピストの派遣があるが、滋賀県からの派遣には体制が不十分。今後整備していく必要がある。

### ・事務局体制について

事務局員を雇用し、今までの作業の効率化が図られたが、まだ不十分。今後は、県庁の横に医療福祉連携拠点があれば士会の事務所を移転する計画。

### ・まとめ

士会の強みは若い会員が多いこと。しかし会員が士会活動に参加しないと意味が無いので、今後も会員が参加しやすい活動を検討し、各部の部員も流動化し人材発掘を図っていく。

## 2. 生涯学習システムの変更について（川崎理事より報告）

P Tの資質を担保し、県民の健康を支えることが重要である。協会は実質的な免許の更新制を進めていく方針としている。

新システムでは、前期研修（従来の新人プログラムに該当）・後期研修を行い、終了すると登録理学療法士になる。実地研修や症例報告などもプログラムに盛り込まれており、今後対応を検討する。

既存の会員は入会後5年、新プロ修了していることで暫定の登録理学療法士になり、この方たちが実地研修の指導者になる。しかし、現状では新プロ未修了者が400名ほど滋賀県でもおり、今後、これらの方を対象として研修を今後2年間でを行い、登録理学療法士を増やすことを考えている。

養成校の指定規則変更により臨床実習指導者は、指導者研修を受講する必要がある。今年度は日本理学療法士協会において指導者研修のファシリテーターを養成する。滋賀医療技術専門学校の教員と臨床のP Tで5名を推薦することにした。

## 3. 各部、各委員会活動報告（部長報告）

各部門より今年度事業の進捗状況の説明があった。詳細は割愛する。

## 4. 各部、各委員会の事業計画、予算ヒアリング

次年度に向けて、各部門の事業計画予算計画を説明していただいた。

このデータを集約し、次年度の計画の素案を31年1月以降執行理事会等で検討。3月の理事会で決議する予定とする。

# 事務局 だより

2月分

○会員数名 1,049 名 (うち入会手続き中 9 名)

○賛助会員 5 社

新年、あけましておめでとうございます。今年もよろしく願います。

## 財務関係書類等の請求・問い合わせ先について

今年度より事務局機能の一部が、湖南市下田に移転しました。そこで、交通費等の請求書の送付先や公文書請求書の請求先について問い合わせがきています。

財 務 関 係：滋賀医科大学 川波 (事務員) 宛

公文書請求：滋賀県理学療法士会

岩倉 (事務局長) 宛

尚、提出先・問い合わせについては、別紙滋賀県理学療法士会問い合わせ一覧を確認してください。

## 住所の異動申請について

自宅会員の方で、お住まいを変わられましたら、速やかに協会マイページ⇒会員管理⇒異動申請より住所の変更手続きをお願いいたします。士会ニュース等の発送物が士会事務局に戻ってきます。よろしくお願い申し上げます。

## < 問い合わせ先 >

〒520-3201 湖南市下田 909-9

滋賀県理学療法士会事務局 岩倉 浩司 宛

問い合わせ jimukyoku@shiga-pt.or.jp

< 日本理学療法士協会ホームページから >

厚生労働省臨床研究法における

臨床研究の利益相反管理について

厚生労働省より、「臨床研究法における臨床研究の利益相反管理について」の通知がありました。詳細については、厚生労働省ホームページをご確認ください。

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html>





## 滋賀県理学療法士会問い合わせ先一覧

### ✓ 事務局 公文書発行

jimukyoku@shiga-pt.or.jp 担当：岩倉

**TEL:0748-78-0620 FAX:0748-78-0621**

※お問い合わせ等は、できる限りメールにお願いいたします。

### ✓ 入会、異動、休会

異動届は協会ホームページ(マイページ)上から行うことになっています。

<http://www.japanpt.or.jp/>

### ✓ 財務関係

kaikai@shiga-pt.or.jp 担当：滋賀医大 平岩 川波 TEL/FAX 077-548-2670

### ✓ 発送物関係 総務部

reha@otsu.jrc.or.jp 担当：大津赤十字病院 リハビリテーション科 奥田

折込発送物等あれば、毎月25日までにお申し出ください

折り込み発送物の発送先の発送範囲についてもお知らせください(会員のみ、関連団体込など)。

各部の事業の配布物に関しても発送に関しては総務部にご相談ください。

### ✓ ホームページ原稿受付

担当：kojin@belle.shiga-med.ac.jp 担当：滋賀医大 岩井

ホームページ <http://www.shiga-pt.or.jp>

### ✓ 士会ニュース原稿受付 広報部

shigaptnews@yahoo.co.jp 担当：公立甲賀病院 山添

### ✓ 研修関係 研修部

spta.kenshu@gmail.com 担当：小児保健医療センター 清岡

### ✓ 介護保険部

ptkaigohokenbu@yahoo.co.jp 担当：信楽中央病院 神山

### ✓ 診療報酬部

rehabili@yasu-hp.jp 担当：野洲病院 辻村

TEL : 077-587-1332 FAX : 077-587-5004

### ✓ 生涯学習関係 生涯学習管理部

m-ikeya@pt-si.aino.ac.jp 担当：滋賀医療技術専門学校 池谷

TEL 0749-46-2322

### ✓ 厚生事業関係 厚生部

ptshiga\_kouseibu@yahoo.co.jp 担当：東近江市蒲生医療センター 奥田

## 編集後記



平成も終わりに近づきました。

皆様、如何お過ごしでしょうか。

インフルエンザ、ノロウイルスが毎年のように流行していますが、  
マスク・うがい・手洗いなど予防に努めましょう。

# 滋賀医療技術専門学校

SHIGA SCHOOL OF MEDICAL TECHNOLOGY

### リハビリテーション医学を学ぼう！



理学療法学科・作業療法学科とも  
に最短資格取得の3年制

学費は3年間で300万円

滋賀県で唯一のリハビリテーション  
のプロを養成する学校

〒527-0145 滋賀県東近江市北坂町967  
学校法人 藍野大学  
滋賀医療技術専門学校

TEL :0749-46-2311/FAX:0749-46-2313  
E-mail:shiga@aino.ac.jp  
<http://shiga.aino.ac.jp/>